

| | | |
|------|------------|--------|
| 学校番号 | 学校名 | 校長名 |
| 46 | 川崎市立西丸子小学校 | 吉村 あかね |

| | |
|----------------------|---|
| 学校教育目標 | 今年度の重点目標 |
| 自ら考え 正しく判断し 進んで実践する子 | ①一人一人に寄り添う児童理解と支援体制の確立 ②児童の資質・能力の育成と教師の授業力の向上 ③現代的教育課題への対応 ④地域に開かれた学校の実現 |

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 具体的な改善策 |
|--|---|---|---|
| 1 ①一人一人に寄り添う児童理解と支援体制の確立 ◎学年→支援教育Co→管理職の連絡体制継続 ◎学級経営の基本を全学級で共有 ○児童の自己肯定感と人権意識の向上 | ◎不登校対策の推進 ・担任⇒CO⇒管理職の確実な情報共有と、保護者との連携で長期化防止。 ○児童、保護者のニーズの理解と実態に合った支援。 ◎必要に応じた関係諸機関との連携(COが中心) ◎風通し良く、安定した学年・学級の経営。 ○専科、級外教員との丁寧な情報交換、情報共有。 ◎いじめ防止及び人権尊重教育の各学年に応じた取組。 ○「にしまるこのやくそく」に沿った児童指導の徹底。 | ◎年度の始めや長期休み明けに行き渋りの傾向が現れる児童がどの学年にもいた。担任・学年・Co・養護・管理職が素早く情報を共有し、専科教員の朝の時間等も協力を仰ぎ、保護者とも綿密に相談しながら対応にあたったため、長期化することなく、通常登校に戻すことができた。学校生活で起きたことが原因で行き場合は、遅れでもできる限り登校させていただきよう願ひし、教師が直接気持ちを聞くことで児童が気持ちを整理することができ、翌日以降の登校につながるケースが多くあった。この対応は、今後も続けていきたい。 ◎CO・支援級主任を中心とし、保護者のニーズに寄り添いながら関係諸機関を紹介し、連携することができた。 ◎年度初めに学級経営に関する研修を行い、「安定した学級」の共通理解の機会をもった。 ○本校は専科制を取り入れて4年目となる。担任と専科担当教員でたいへんよく連携がとれるようになり、積極的に情報交換、共有を行っていた。複数で児童理解を進めることの効果が大きいに感じられた。 ◎いじめにつながりそうな案件については、校内委員会を即座に開き、誠実かつ慎重に対応を行った。 ・児童指導に関しては、「にしまるこのやくそく」を基本とするが、本年度も時代や状況に合わせて加除訂正を行った。 | ◎教室や学校に気持ちが向きにくい児童へは、保護者と連絡を密に取り、安心して登校できる場所や参加できそうな活動を紹介し、まずは部分的に参加することができるよう促すことが必要だと考える。来年度は、さらに結果を急ぎすぎることなく、対応していけるよう共通理解を図りたい。不登校の原因は様々であり、児童によって異なる。児童が明るく登校する姿を目指し、今後も校内での連携と保護者の協力をおおきながら進めていきたい。 ◎不登校が長期化している児童が数名定着している。来年度は、彼らが来てほしいな、と思える人的配置や時間、場所を作るところから始めたい。 ◎月に2回来校する巡回カウンセラーだけでなく、教育相談や巡回指導、SSW等、専門家の助言をもらえる機会を来年度も取り入れ、指導を受けたことを学校活動に生かしていく。 ◎学級経営研修だけではなかなか浸透しない。若手や経験の浅い教員が増える中、計画研修以外にも、OJTや学年のつながりが有効に機能するよう、心理的安全性の保たれる職場づくりをめざし、課題を気軽に伝え合える教職員の人間関係構築を目指したい。また、学年主任を育てることが急務である。組織として必要な教員力を育てるために、会議の在り方等を改善していく。 ◎専科制については、今後も積極的に進め、専科教員の「専門性の高さ」や「複数の目での見守り」など、児童にとってのメリットを増やしていきたい。 ◎若手教員が多いと、マニュアルも必要である。いじめや児童指導関係の対応についても、職員間の共通理解、保護者との共通理解を今後も図っていきたい。ただし、マニュアルはあくまでもスタンダードであるので、常に報連相が行えるよう、声を掛け合う必要がある。 |

| | | | | |
|---|---|--|---|--|
| 2 | <p>②児童の資質・能力の育成と教師の授業力の向上</p> <p>◎「聴く力」「伝える力」の育成</p> <p>○授業に関する基礎基本を全教員で共有</p> | <p>◎日常活動や授業を通して、「聴く力」「伝える力」を高める。</p> <p>○国語の授業や日常活動の中で「西丸子の聴く力、伝える力」をのびせていく。</p> <p>◎教科担任制(算数、体育、理科、音楽、図工等)の推進と授業の質の向上</p> <p>○担任との情報交換を丁寧に行う。</p> <p>◎他校の授業を積極的に参観して研修</p> <p>◎特別支援学級の指導体制の再編</p> <p>○専科による指導を導入し、小集団での学習を推進。</p> | <p>◎日常活動や授業において、児童の「聴く力」「伝える力」を高めることを意識して進めた。</p> <p>・校内授業研究では年度の始めに校長と教務主任とで教員対象に国語のミニ授業体験を行い、児童の主体性を伸ばし、資質・能力を着実に身につける授業づくりについて全職員で共通理解を図ろうと努めた。また、全クラス国語の授業を公開し、招聘した講師の指導を受けた。教職員が意識して研究に取り組むことで、児童の「聴く力」「伝える力」を高める授業について教員の意識づけを図ることができた。</p> <p>・国語で身につけた力を、児童が周年行事で発揮する場面が見られた。</p> <p>◎担任と専科教諭との情報交換、情報共有が、意識的に行われた。</p> <p>・授業中の児童の様子など、気になった場面も、積極的に伝え合うことで、児童の困り感にも寄り添うことができた。</p> <p>◎授業力向上のためには、校外の授業公開を参観することが必要と考え、今年度積極参加を呼びかけたところ、積極的に参加した教員が授業研究に目覚め、中には来年度からは研究会の常任委員に立候補する教員もいた。教員自ら学ぶ楽しさや意欲を児童に伝えていける原動力となってくれることを期待している。</p> <p>◎支援級では、これまでの自立活動以外に、音楽、図工、道徳などの専科教諭が授業を行うことで、担任は余裕をもって児童支援を行うことができた。また、児童にとっては、異学年交流の貴重な機会となった。</p> | <p>・来年度の校内研究の方向性についての教員の意見の中で、話す・聞く力は国語科全般で系統立てて身につけていくものであること、身につけた資質・能力は他教科で発揮されるよう授業づくりをしていく必要があることがあげられていた。ようやく研究の成果が見えてきたと感じた。来年度はどのような切り口で校内研究を進めるにせよ、探求的な学びと校内研究を絡めて、授業づくりについて研究していく必要がある。</p> <p>・経験の浅い教員が増加する中、研究や研修については、学年や学校全体で共有するよう進めたい。また、研究推進委員会・学年主任会だけでなく、必要な時は探求的な学びの担当や情報教育推進担当など、部署が連携して課題解決に向き合っていきたい。</p> <p>・教職員の動きが教科担任制に慣れてきたので、今後は、さらに児童の学習面、生活面でのプラスに繋がるよう、計画的な情報共有、情報交換の場を取り入れたい。</p> <p>・個別学習における着実な学びを進めるとともに、今後小集団での学習や交流の機会を増やしていきたい。</p> <p>・始業前の時間の見守りについて、通年課題となった。来年度は、学校全体の勤務時間の開始時刻を変更して対応する。朝の見守り事業開始に間に合わされなかったのが残念である。</p> |
| 3 | <p>③現代的な教育課題への対応</p> <p>◎GIGAスクール構想の推進</p> <p>◎教職員組織の改革と意識づけ</p> <p>○働き方改革の推進</p> <p>○キャリア在り方生き方教育の推進</p> | <p>○GIGA端末を授業の中で活用し、情報活用能力を育成する</p> <p>○教職員自身もGIGA端末を活用</p> <p>○働き方改革を進めるための教職員の意識改革</p> <p>○専科制を利用した欠員補充やフォロー体制の工夫</p> <p>○キャリア在り方生き方教育と授業との関連付けの確認</p> <p>○創立70周年記念式典開催</p> | <p>◎授業の中でGIGA端末を使用するようになった。情報活用能力を伸ばす使い方ができている取り組みもあれば、タイピングの練習をすることに重きが置かれているなど、学年によって偏りがでてしまった。保護者からも、端末の使用方法についてご意見をいただいた。学校全体としての推進については、今一つであった。</p> <p>・打合せや職員会議では、ペーパーレスが進み、GIGA端末を使用する形に職員も慣れ、効率化が進んでいる。</p> <p>・働き方改革が時間短縮だけの短絡的な議論になると、働く時間に比例して意欲と業務水準が落ちる。働き方改革の本来の目的が達成できるよう、改革を進める必要を感じた。</p> <p>・学年会・学年主任会・教務会の整理をして、一人ひとり参画意識をもった運営ができるようにしていきたい。</p> <p>・担任の休暇の際には、学年だけでなく、教頭、教務主任を中心に時間割の調整や補教の体制を整え、児童の教育活動に影響のないよう進めた。</p> <p>・6年生の総合的な学習の時間に、コミュニティ・スクール委員の皆様からお話をお聴きする機会を設けた。児童からは、貴重な時間になったとの声が多く聞かれた。</p> <p>・キャリアノートを利用し、市のキャリア在り方生き方教育に沿って、学年ごとに進めた。</p> <p>・創立70周年記念式典に向け、実行委員長を中心に運営した。実行委員の皆様のご協力、無事節目の年を終えることができた。教職員も年度の始めは義務感が強く、負担に感じている様子が見られたが、これから地域の未来を担う児童に、地域に感謝の目が向けられるよう進めた。</p> | <p>・昨年度GIGA部会の担当者が、学年ごとの一覧を作成したが、浸透しなかった。次年度はこれを利用し、部会だけでなく、学年主任会や校内研究推進部会とも連携しつつ、全体を見通した計画を進めていきたい。</p> <p>・GIGA端末使用で児童につけるべき能力は何なのか共通理解を図るとともに、探求的な学びを進める手段として利用が進むように利用法を改善していく。</p> <p>・働き方改革は、次年度も「児童」を主語にして議論していく。また、効率よく、教育内容の質を向上させるためには、協働した働き手を育てること、また、常に新しい情報を取り入れることを心掛ける。また、教員の個々の困り感には常に寄り添う体制を整える。</p> <p>・本年同様に、教頭、教務主任を中心に時間割の調整や補教の体制を整えるが、児童の教育活動に影響のないよう進めていくために、学年で指導に当たれるよう調整していく。</p> <p>・創立70周年記念式典開催の年であったため、地域の皆様との連携を深めながら進められた。次年度からは、コミュニティスクールの皆様を窓口に繋がっていききたい。</p> |
| 4 | <p>④地域に開かれた学校の実現</p> <p>◎コミュニティ・スクールの推進</p> <p>○学校だより、HP等による教育活動の広報</p> <p>◎DX化に向けた改革の推進</p> | <p>◎コミュニティ・スクールと教育活動のリンク</p> <p>○児童と触れ合う機会を増やす。</p> <p>○学校評価アンケートの効果的な活用</p> <p>○学校だより、HPの内容の充実</p> <p>○ミマモルメ配信メールの効果的な活用</p> <p>○保護者や地域の方と対面する場面を大切に、学校の教育方針や姿勢を伝えていく。</p> <p>◎DX化へ移行(ペーパーレス化と保護者への周知)</p> | <p>◎2月にコミュニティ・スクールの委員と一般教職員との交流会を行った。</p> <p>・これまでの協議会への参加は、教務部が中心となっているため、なかなか学級担任の意識まで変えるに至らなかったが、この交流が良い機会となった。</p> <p>・保護者からのご意見の中で、「すぐに変える必要があり、かつ変更可能なもの」については、毎年すぐに変更するようにしているが、個人的なものについては、難しいところがある。</p> <p>・学校だよりを通じて、学校の様子、児童の様子を伝えてきた。この話題で、保護者や地域の皆様から声をかけていただく機会が多かった。</p> <p>・学校説明会や報告会を通じて、全体の教育活動に関する内容を伝えてきた。</p> <p>・ミマモルメの有効活用やPTAのご協力もあり(スクリーン等)、DX化については、かなり進んできた。</p> | <p>・コミュニティ・スクール側も、委員さんだけではなく、学校をサポートするメンバーを集めようとしてきた。次年度は、学校側もタイムリーに情報提供しながら、協力を依頼したい。</p> <p>・今後も、アンケートだけでなく、気軽に要望をお伝えいただくよう、呼びかけるとともに、そういった機会をできる限り設けるようにしていきたい。</p> <p>・次年度も、あらゆる機会や方法で、学校の様子や児童の様子について、保護者や地域の皆様にお伝えしていきたい。</p> <p>・DX化については、個人情報等の取り扱いに細心の注意を払い、児童の安全を最優先に進めていく。</p> |

| 学校関係者の評価 (●課題 ○評価) | 学校運営のまとめ |
|--|---|
| <p>【学校運営協議会】</p> <p>◎運動会について</p> <p>○今年度は、本協議会でも熱中症対策について知恵をしばった。●次年度からの教育活動でも注意していかなければならない。</p> <p>⇒運動会については、ご協力に感謝。来年度からは秋開催とするため、多少気候はいいはず。そのかわり、児童主体の行事となるよう取り組みを進めていきたい。</p> <p>◎70周年に関して</p> <p>○主体的な子ども達の活動にコミュニティスクールとしてかかわることができた。○地域と学校をつなぐ取り組みができた。</p> <p>◎教員の働き方改革について</p> <p>⇒対応等で困った時は、学校だけで抱えず、相談に乗りたい。・働き方改革とは、ただ時間を短縮すればいいというわけではない。教員が本来の業務に注力できる環境を整えることが大切である。そのための支援を本協議会が担えればと考える。</p> <p>◎PTA活動とコミュニティスクールのあり方について</p> <p>・本協議会は、学校活動や教員の支援だけでなく、PTA活動も支えていきたい。来年度から、PTAが主催する行事にどう関わっていくかを相談していきたい。</p> <p>◎本協議会の継続のあり方</p> <p>・コミュニティスクールとなり、より実働部隊としての役割が強まった。会員の高齢化が進む中、新しい仲間を増やしていく必要がある。</p> <p>【保護者アンケートより】</p> <p>●授業参観の日程設定について。同じ曜日にならないようにしてほしい、土曜参観してほしい。</p> <p>⇒来年度行事予定に反映。</p> <p>●宿題でのGIGA端末での新出漢字学習は力がつかない。</p> <p>⇒宿題も含め、GIGA端末の使用法について全教員で再確認</p> | <p>【目標に対する学校運営の総括】</p> <p>○今年度は70周年という大きな行事があったが、地域の皆様のご協力のおかげで、子ども達の主体的な姿や、地域への感謝の思いを披露することができた。行事のおかげで、児童も教員も地域とのつながりを意識できる機会となった。</p> <p>○校内研究の取り組みを基盤に授業改善の必要性が定着し、新しい試みに挑戦する教員が出てきた。</p> <p>○1年を通して、心理的安全性が確保された職場づくりを目指した。ようやく、それぞれの立場で心理的安全性について考えてもらっている手ごたえが生まれてきた。</p> <p>【次年度の目指す方向性と重点的な取り組み】</p> <p>①一人一人に寄り添う児童理解と支援体制の確立</p> <p>②児童の資質・能力の育成と教師の授業力の向上</p> <p>③現代的な教育課題への対応</p> <p>④地域に開かれた学校の実現</p> <p>の4本柱を継続し、進めていく。なお、来年度から次期学習指導要領施行にむけて、探求的な学びをさらに明確に進めていくことが求められている。これまで行ってきた主体的・対話的で深い学びが本校の学校教育の中で確固として位置づくよう、校務分掌の各部会が積極的に提案し、それぞれの部署と連携してカリキュラムを構築していく必要がある。この中には、運動会など主要な行事を児童主体の活動にしていくことも含まれる。</p> <p>◎具体的な対策として反映させたいもの</p> <p>○学校運営組織としては、</p> <p>・教職員の「部会」を充実させ、また横のつながりを持ちながら、教務会や学年会に提案できるよう、時間も確保する。併せて、学校説明会と報告会も、担当発信の割合を増やしていく。</p> <p>・若手や経験の浅い教員が増えているため、初任者に限らず、「気づいたときにOJT」を意識し、教員同士、気軽に教え合い、聞き合うことで、西丸子小の教職員のチーム力をさらに高めていく。心理的安全性を作ってもらおうをまつチームではなく、個々の立場で心理的安全性を作り出せるチームにしていこう。</p> <p>○児童理解の面では、引き続き、保護者とともに子どもに寄り添う姿勢を貫く。そのためには、学校が安心した居場所となる環境づくりを進める必要がある。</p> <p>・小さなことでも情報提供やご相談をいただけるよう、保護者に伝えていく。</p> <p>【事務局の施策や事業、学校運営支援等に対して】</p> <p>○中原区担当の先生方には、学校運営で困っている際、すぐに相談にのっていただけたことが大変心強かった。また、新任校長をサポートする体制が整っていることも、非常にありがたい。</p> |